

【幕別】J A さつない（高橋秀樹組合長、176人）の第72回通常総会が22日、同J A で開かれた。2019年度の農畜産物販売高（交付金を除く）は前年度比1.9%減の39億2,100万円だった。豆類、小麦が好調で全体をけん引した。書面議決を中心に開催した。

農産物は3.7%増の20億9,000万円、畜産物は和牛などの取扱頭数の減少で、7.6%減の18億3,000万円だった。

品目別では豆類が40.4%増の3億4,598万円、小麦が25.7%増の2億882万円、ジャガイモが9.3%増の7億196万円と前年を上回った。野菜は安値で推移し、16.5%減の4億7,687万円。生乳は0.2%減の5億1,703万円

だった。経常利益は8,716万円を計上した。

今年度事業計画では、農産物が19億8,600万円、畜産物が18億8,200万円とした。高橋組合長は「私たちの営農や生活が新型コロナウイルスに脅かされようとしている。一日も早い収束を願っている」とあいさつした。

ホクレン会長 篠原氏（J A 士幌町） 串田氏（J A 十勝清水町）中央会副会長に

2020年5月26日

6月に改選を迎えるJ A グループ北海道の役員人事で、ホクレン会長にJ A 士幌町組合長の篠原末治氏（59）、J A 道中央会副会長にJ A 十勝清水町組合長の串田雅樹氏（56）の就任が内定した。6月23日の総会で正式決定する。十勝選出の常勤役員が引き続き道農業界の主要ポストに就く見通しとなった。

役員推薦会議が25日に旭川市で開かれ、ホクレン、道中央会、道信連、道厚生連、J A 全共連北海道の役員を内定した。26日午後を発表する。

推薦会議副委員長の山本勝博氏（J A 中札内村組合長）は「ホクレン会長は北海道農業の最高ポスト。篠原氏、串田氏とも（年齢的に）長い期間を務められることから北海道農業を良い方向にけん引してくれると期待している」と話した。

篠原氏は1961年士幌町生まれ。町内で畑作を営む。2018年からJ A 士幌町の組合長。ホクレンは道内J A が出資して経済事業を担う連合会で、取扱高は1兆5,000億円超。管内からホクレン会長に選任されるのは、08年まで9年間務めた矢野征男氏（J A めむろ）以来となる。

道中央会は農政などを担当するJ A グループの「司令塔」。副会長職は1人で串田氏が内定した。串田氏は1963年清水町生まれ。2015年からJ A 十勝清水町の組合長。現在、会長は飛田稔章氏（J A 幕別町会長）が務めており、後任は現副会長の小野寺俊幸氏（J A ところ会長）が就く予定。



串田 雅樹 氏



篠原 末治 氏

取扱高0.5%減 151億円 野菜価格低迷で 史上4番目 J A 幕別町

2020年5月27日

【幕別】J A 幕別町（前川厚司組合長、組合員413人）の第72回通常総会が26日、同J A で開かれた。2019年度の農畜産物取扱高（共済金など含む）は前年度比0.5%減の151億7,000万円。野菜価格が低迷したものの、史上4番目の取扱高となった。

新型コロナウイルス感染防止のため、書面議決を中心に開催した。

野菜類は主要産地が豊作だったことなどから安値で推移。ダイコンの取り扱い実績は4,558トン（前年度比13%減）で3億8,165万円（同28.1%減）、ニンジンでは6,584トン（同4.9%増）で7億7,877万円（同37%減）と厳しい結果に。秋まき小麦の総反収（10アール当たり

の収量）は11.53俵（1俵60キロ、18年実績9.67俵）で、製品率は95.96%と好調だった。ビートは1ヘクタール当たり71トン（同70.8トン）で糖分は16.4%。

生乳生産量は前年度比3.5%減の1万9,186トン。乳代単価は管内J A で最も高い精算単価となった。畜産全体の取扱いは同5.5%減の49億2,554万円。当期末処分剰余金は4億2,658万円、15年度以来となる事業分量配